

# Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生  
ネットワーク事務局

〒102-0082  
東京都千代田区一番町8番地  
一番町FSビル3階  
財団法人 リバーフロント整備センター内  
Tel : 03-6032-7121  
Fax: 03-6032-7456  
E-mail: info@a-rr.net  
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

## 巻頭書記

JRRN 個人会員数が 300 名に達しました。皆様  
に心より御礼申し上げます。

本ニュースレターでは、現在の個人会員の構成と  
ともに、今後の JRRN 会員数増加に向けた取組みに  
ついて簡単にご紹介します。また、本年 3 月にトル  
コ・イスタンブールで開催される第 5 回世界水フォー  
ラムに向け ARR 事務局として作成を進めている

「アジアに適応した河川環境再生の手引き」の進捗  
報告をさせていただきます。また技術や事業の視点とは  
別のアプローチで川を見つめるきっかけになればと、  
「川を題名とした小説」に関する寄稿記事を掲載さ  
せて頂きました。

引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご支援とご  
協力をお願い申し上げます。

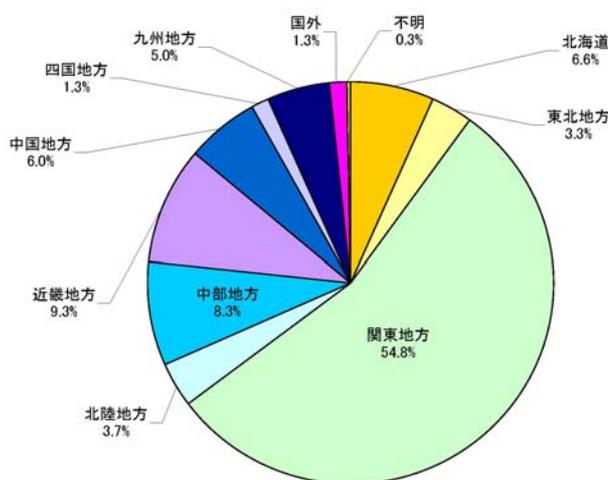
## 活動報告(1)

### JRRN個人会員数が 300 名達成！

JRRN 個人会員数が、1 月 28 日をもちまして 300  
名を突破致しました。河川再生に関する情報循環と人  
材交流を活動の軸とする JRRN にとって、価値ある  
サービスを提供しつつ会員数拡大を図ることが最優  
先の課題となっています。

現在の個人会員の所属別内訳は最終ページの図の  
通り、約半数が民間企業に属する方々で構成され、  
公共機関、研究機関、市民団体がそれぞれ約 20%、  
10%、10%と続いています。また会員の地域別内訳  
は、関東地方を拠点に活動する方が約半数、関東以  
外の地域がほぼ同じ割合となっています。(右図)

これら結果から、まだまだ JRRN の提供するサー



JRRN 個人会員の地域別構成



# 寄稿記事

## 川を題名にした小説のご紹介

寄稿者：佐合純造（JRRN 事務局長）

何の縁か巡り合わせか、私は社会に出てほとんどずっと川の仕事をし現在に至っている。これまでの職場ではそういう人も結構多かったが、世間一般ではめずらしい部類であろう。しかし、「川が私の専門です」と公言しつつも、ときどき、川のことを本当にわかっているのかと不安になる。私の場合は土木屋として川の仕事をしているが、たとえば、地理、気象、生物、哲学などの分野を専門にして川の仕事をしている方も多し。同じ川であっても専門が変わると見方が違ってくるし、他の分野のことはわからないことが多い。

あるとき、書店で「仁淀川」という文庫本が目にとまった。仁淀川でたまたま仕事があったので、そのときの現地調査の風景、川の流れなどが頭に浮かんだ。しかし、買って読んでみると、そのほりで暮らす一家とその嫁、姑の確執を描いた小説で仁淀川の特徴がくわしく書かれている訳ではなかったが、私の新たな仁淀川のイメージをつくることになった。この本を書いた宮尾登美子さんは仁淀川が流れる高知出身の小説家であり、小説を通じて仁淀川に対する思いが伝わってきた。土木屋とは別の「川」の見方があることを再認識した。



小説の舞台「仁淀川」

その後、書店（主に古本屋）に行くと具体的な川の名前のついた小説を探し習性がついてしまった。これまでに集めた本は70以上になる。内容は紀行もの、恋愛もの、時代もの、家族ものなど様々である。題名が川の名前でなくても川を舞台にした小説も多いはずであるが、これを見つけることは私には実力不足である。また、買うばかりで読んでいない本も多い。しかし、今読まなくても、私の人生が一段落したときに少しずつ読むつもりで、秘密の書庫にしっかり保管している。

これまでの読んだものではその流域に住む人々の人生、また、家族の親、子、孫、嫁など人のつながりを川と対比させながら、その運命を劇的に描くストーリーが多い。最後まで読むと川との関わりや印象が心のどこかに残る。



今の飛騨川の風景  
(正面の町並みの中に私の育った家があった)

私は10歳ぐらいまで岐阜の飛騨川（木曾川の支流）のほりで育った。その当時のこと思い出するのは、私たち子供を育てるために両親が一生懸命働いていたことと飛騨川のことである。私には小説を書く実力はないが、これらの小説を読みながら、飛騨川は私の人生にとって大きな存在であることをあらためて感じている。

土木の河川屋は水量や土砂、また、管理や計画はどうなっているのかなどと川を無機的にとらえることが多い。最近はやっと魚や植物のことも考えるようになり、人がこれまでインパクトを与えて破壊してしまった川をどのように復元するのか苦労しながら取り組みつつある。

しかし、よく考えると、人間は川から多くのことを教わってきた。また、人間は川からいろいろなインパクトを受けて、これを生活へ反映させてきたはずである。

これらのことをしっかり理解した上でこれからの川づくりを考えることも大切ではないだろうか。私たちのJRRNはこのための情報交換の場にも役立つべきであろう。

なお、川にまつわる小説や物語については、JRRNホームページ内の「一般図書」ページで、「川に関する小説・物語」カテゴリとして詳しくご紹介している。

<http://www.a-rr.net/jp/book/public/20/>



「この本も是非！」という書籍情報や皆様のエピソードもお待ちしております。  
 JRRN を通じご紹介させていただきます。(情報提供方法は以下参照)  
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/useterms/>

## 会議・イベント等 (2009年2月)

### (ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

- ARRN/JRRN 主催・共催のイベントはありません。

### (その他の河川再生に関する主なイベント)

- 中東水パネル: 中東諸国の水問題解決に向けた取り組みと日本の役割

○日時: 平成21年2月6日(金) 14:00~17:00

○会場: 国連大学 ウ・タント国際会議場

○主催: NPO 法人日本水フォーラム

[http://www.waterforum.jp/jpn/symposium/090206\\_panel/index.html](http://www.waterforum.jp/jpn/symposium/090206_panel/index.html)

- 伊勢湾流域圏再生シンポジウム

○日時: 平成21年2月14日(土) 13:00~17:00

○会場: 名古屋文化短期大学

○主催: (社) 中部建設協会 他

[http://www.ckknet.jp/pdf/20090214isewan\\_gaiyou.pdf](http://www.ckknet.jp/pdf/20090214isewan_gaiyou.pdf)

- 第129回河川文化を語る会『材質ョウウの遺伝子解析とスーパーサイエンス校の7年間の軌跡』

○日時: 平成21年2月23日(月) 18:00~20:00

○会場: シェーンバッハ・サボー 3F「穂高」

○主催: (社) 日本河川協会

[http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru\\_no129.htm](http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no129.htm)

- 多自然川づくり・ミニシンポジウム

○日時: 平成21年2月24日(火) 13:00~16:00

○会場: 財団法人リバーフロント整備センター

○主催: 財団法人リバーフロント整備センター

<http://www.rfc.or.jp/tashizen/20090130.pdf>

- 第3回 日本の“いい川”シンポジウム

○日時: 平成21年2月28日(土) 13:00~18:00

○会場: 東京ウィメンズプラザホール

○主催: 日本の“いい川”シンポジウム実行委員会

[http://www.mizukan.or.jp/sympo/3\\_iikawasympo%201eaflet.pdf](http://www.mizukan.or.jp/sympo/3_iikawasympo%201eaflet.pdf)

- よみがえれ!! 井の頭池! 井の頭恩賜公園水質浄化セミナー&ワークショップ

○日時: 平成21年2月28日(土) 13:00~16:30

○会場: 井の頭自然文化園彫刻館B

○主催: 井の頭恩賜公園100年実行委員会

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/BOSHU/2008/12/22icp100.htm>

## 冊子・ビデオ等の紹介

- 川の百科事典 (2009.1 発行)

- ・ 編集: 高橋裕
- ・ 出版社: 丸善
- ・ 発行年月: 2009年1月
- ・ 価格: ¥ 15,750 (税込)
- ・ ISBN-13: 978-4621080412



本書は、川に関する学術用語から、川遊びや川の命名理由に至るまで、川に関するすべてが漏れなく紹介されています。川に興味を持つ子どもから研究者・技術者までが満足できる川の辞典です。

- 水辺のある暮らし~平成19年度「川に学ぶ」活動事例集 (2009.1 発行)

- ・ 編集発行: 財団法人リバーフロント整備センター
- ・ 発行年月: 2009年1月
- ・ 資料は以下からダウンロード可能です。

<http://www.rfc.or.jp/jyosei/manabu/jirei/H19web.pdf>



本書では、全国各地の市民団体・小学校等による自然体験や環境教育活動として、平成19年度「川に学ぶ」活動助成事業の活動成果を紹介しています。

# 事務局からのお知らせ

JRRN が設立されて 3 年目に突入しました。JRRN の活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

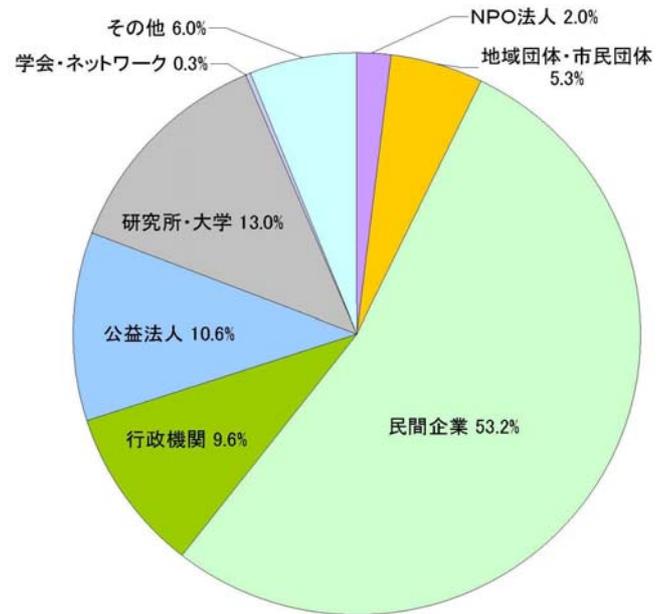
## ■ JRRN の登録資格

JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

## ■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2009年1月31日時点の個人会員構成

## 【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局  
財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内  
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル  
Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456  
E-mail: [info@arr-net.jp](mailto:info@arr-net.jp)  
URL: <http://www.arr-net.jp/>

## ■ 会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.arr-net.jp/info/member.html>